




土砂災害の前兆を知り、危険に備えることが大切です

■土砂災害の前兆現象

土砂災害の前には次のような現象が起こることがあります。前兆となる現象を確認したら、いち早く避難しましょう。

名称	土砂災害の前兆現象
土石流	 <ul style="list-style-type: none"> ・地鳴りがする ・沢の水位が急激に減る ・沢の水が異常に濁る ・流木が発生する
地すべり	 <ul style="list-style-type: none"> ・地鳴りがする ・池や沼の水位が急変する ・井戸水が濁る ・落石や地面のひび割れが発生する
急傾斜地の崩壊(崖崩れ)	 <ul style="list-style-type: none"> ・地鳴りがする ・崖から小石が落ちてくる ・湧き水が発生する(止まる・濁る) ・斜面が膨らむ

■急傾斜地(崖地)の点検を!

斜面は、風化が進行して雨が降ってなくても突然崩壊する危険性があります。土地を所有している方は、日頃から自主点検を心掛けましょう。

◎点検のポイント

点検時に、落石や浮き石、亀裂がある場合は、風化の進行により斜面が不安定になっている可能性があるため注意が必要です



落石



浮き石



亀裂

■ハザードマップで災害リスクを確認

土砂災害の恐れがある区域は、赤色または黄色に着色されています。自宅周辺の危険度を把握しましょう。



■土砂災害警戒区域 ■土砂災害特別警戒区域

※「仙台防災ハザードマップ」は、市ホームページで公開しているほか、市役所本庁舎1階市民のへや、各区役所・総合支所の総合案内、市民センター等で配布しています

■避難準備をしておきましょう

日頃から非常持ち出し品の準備や、避難場所、災害時の情報入手方法などを確認しておきましょう。



* 飲料水・着替え・マスク等の衛生用品や、紙おむつ等家族構成によって必要になるものを準備しましょう



* 安全な避難経路や、避難するタイミング等について、家族で事前に確認しましょう

災害時の避難行動を確認しましょう

警戒レベル・避難情報

状況	警戒レベル	避難情報等
今後気象状況悪化の恐れ	警戒レベル1	早期注意情報
気象状況悪化	警戒レベル2	大雨・洪水・高潮注意報
災害の恐れあり	警戒レベル3	高齢者等避難
災害の恐れ高い	警戒レベル4	避難指示
警戒レベル4までに必ず避難		
災害発生または切迫	警戒レベル5	緊急安全確保

※「仙台防災ハザードマップ」に掲載のマイ・タイムラインに合わせ、災害時の時間経過に沿った表記をしています

避難準備・行動確認

■土砂災害警戒情報に注意

テレビ、ラジオ、インターネットなどで最新の情報を積極的に入手しましょう

■早めの避難

避難に時間のかかる高齢者等は警戒レベル3で、そのほか全員が、警戒レベル4で**危険な場所の外へ避難**しましょう

状況に応じて適切な避難行動を選択!

お住まいの地域や、自身・家族の状況によって適切な場所に避難しましょう

■親戚・知人の家に避難

■指定避難所に避難

※屋外に出ることによって危険な場合は、自宅や近隣の頑丈な高い建物の2階以上で、崖などの反対側へ移動して安全を確保しましょう

◆「マイ・タイムライン作成講座」を開催します。詳しくは18ページをご覧ください



平成30年7月豪雨(愛媛県宇和島市)

土砂災害から身を守るために



平成30年北海道胆振東部地震(北海道厚真町)



令和2年7月豪雨(熊本県芦北町)

資料提供 NPO法人土砂災害防止広報センター

突然迫る土砂の脅威

山や崖が崩れ、雨水と混じった土砂がすさまじい破壊力を持って、人命や住宅などに襲いかかる土砂災害。傾斜が急な山が多数あり、大雨や台風などが多い日本では、地形的・気候的にも土砂災害が起りやすい国土環境にあります。昨年は全国で1319件発生し、これは、昭和57年の集計開始以降における年平均発生件数1105件の約1.2倍となっています。土砂災害は、突発的に起こり、ひとたび発生すると一瞬で人命や財産を奪うなど甚大な被害をもたらすのが特徴です。土砂災害には主に、山から崩れた土や石などが水と混じって強い勢いで押し流される「土石流」、やや緩い斜面の一部または全部が斜面下方に滑り落ちる「地すべり」、急な斜面が一気に崩れ落ちる「崖崩れ」の3種類があります。土砂災害は、大雨や地震などで地盤が緩むことによって引き起こされますが、いっどこで発生するかは地形や地質、植生などさまざまな要因によって左右されるため、予測することは非常に困難です。そのため、自分の住む地域の災害の危険性を把握し、避難経路を確認するなど、日頃からの備えが重要です。

適切な避難行動の確認

市内では、土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等に、約千カ所が県によって指定されています。警戒区域には、住民等の生命または身体に危害が生じる恐れがある「土砂災害警戒区域(通称イエローゾーン)」と、建築物に損壊が生じ、生命等に著しい危害が生じる「土砂災害特別警戒区域(通称レッドゾーン)」があり、平時からハザードマップ等で確認しておくことが大切です。避難は、土砂災害の発生が想定されるエリアの外へ避難することが基本です。避難先は指定避難所に限らず、安全な場所に住む親戚や知人宅なども検討しましょう。新型コロナウイルスの感染状況も踏まえ、安全な避難先を事前に決めておくことが肝心です。雨が降り出したら、最新の気象情報に注意し、早めの避難を心掛けましょう。土砂災害の発生前には、地鳴りや小石の落下などの前兆現象が起きることがあります。これらの現象に気付いたら、周囲の人々と声を掛け合い、安全な場所へ避難してください。いざという時のために、自身や家族の状況に応じた適切な避難行動を確認しておきましょう。